

## 特集 | リムーバブル／トランスフォーマブル建築の可能性

社会に期待される役割や機能を発揮する建築は、従来は恒久的な利用を想定した計画が中心でした。しかし、昨今の先の読めない世界情勢、国内人口減少、生活様式の変化、DXなどの影響により、建築に求められる機能や性能が変わりつつあります。このような背景から、数十年にわたって供用される建築を計画・設計することの難易度はますます高くなってきており、近年においてリムーバブル(仮設)やトランスフォーマブル(可変・可動)という考え方や技術を取り入れた建築や都市空間の事例も増えてきました。

例えば、オリンピックや大規模イベントでは、プレハブや仮設施設が活用され、電力・通信・給排水といったインフラも仮設で整備されることがあります。イベント終了後にはこれらは撤去、再利用されるため、跡地利用も含め柔軟な対応が可能です。また、大規模災害時の応急住宅、社会実験を通じた都市空間の試行的な構成なども、こうした建築の実例として挙げられます。

このようなリムーバブルやトランスフォーマブル建築の活用は、環境や社会ニーズの変化に柔軟に対応するための手段であり、災害対応への柔軟性と適応性、資源の最適活用や環境負荷の低減、ライフサイクルコストの効率性などの観点からも有用と考えられます。

持続可能な社会に向けた配慮や取組みが共通認識となる一方で、変容するニーズに価値を提供し続けることが求められています。リムーバブルやトランスフォーマブルの考え方による建築の可能性や将来性について考えていきたいと思います。